

ICT技術活用による空き家利活用のあり方研究・実証調査事業 (一般社団法人大阪府不動産コンサルティング協会)

課題	ICT技術活用による空き家利活用のあり方の研究
目的	空き家等の既築住宅においてICT技術を活用した健康に配慮した住空間を実現することにより、空き家の活用が促進されることを想定
取組内容	ICTを活用して高齢者や子育て世代等、多様な世代が快適に暮らし続けることができる、空きストックの活用のあり方を検討・実証調査するものである。
成果	ICT技術を活用した空き住戸の改修に関する調査研究報告書

- 日本全国の多くの地域で今後取り組まれると予想されるスマートシティの推進においては、**既存の住宅地等をスマートシティに転換する**のが現実的であり、そこに多く存在する既存住宅、中でも地域内の空き家の適正な活用はこの転換の鍵となる。
- 空き家等の既築住宅において**ICT技術を活用した健康に配慮した住空間**を実現することにより、**空き家の活用が促進される**ことを想定。

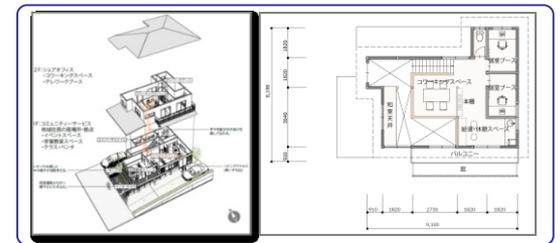
＜実施内容＞

- 勉強会(住環境2回、テレワーク2回)
- 有識者会議(住環境2回、テレワーク2回)
- 事業者ヒアリング(住環境、テレワーク)
- 生活者ヒアリング(住環境)
- 生活者アンケート(テレワーク)
- 改修実証実験(住環境)
- 戸建て改修計画(テレワーク)
- ICT活用相談

◆有識者会議(6名)

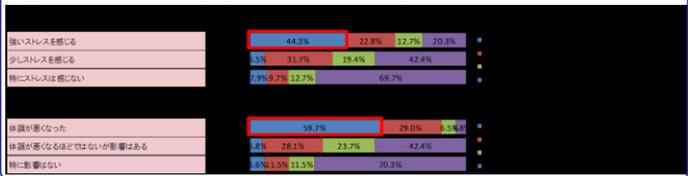
- 座長: 田中幸弘(新潟大学教授)
- 副座長: 佐伯圭吾(奈良県立医科大学教授)
- 有識者4名(建築、IT、設備、行政の各分野)

- ◎温熱環境の健康影響: 第1回、第4回
- テレワークの健康影響: 第2回、第3回
- ※勉強会(ウェビナー)も同テーマで開催



テレワークを想定した既築住宅改修計画

テレワーク・在宅勤務後の引っ越し意向は「強いストレスを感じる」「体調が悪くなった」と回答した場合に非常に高くなっている。



温熱改修実証実験

外気温が2.5-3度低い時期であったが断熱改修により居間温度は良好に保たれ、結果として血圧低下にも寄与した

時期	居間室温、℃	居間滞在時の居間室温、℃	寝室室温、℃	外気温、℃
house ID 対象者ID	中央値 (四分位範囲)	中央値 (四分位範囲)	中央値 (四分位範囲)	中央値 (四分位範囲)
全house 全体対象者 介入前	16.4 (13.6, 18.2)	18 (14.9, 19.8)	14.9 (12.1, 16)	8.3 (5.8, 11.1)
全house 全体対象者 介入中	15.8 (13.4, 19.1)	19.1 (15.7, 20.4)	12.4 (11.1, 13.8)	5.1 (3, 7.5)
全house 全体対象者 介入後	16.4 (14.4, 18.4)	17.9 (15.5, 20.075)	13.9 (12, 15.1)	7.6 (4.3, 9.3)

主観的寒冷感	収縮期血圧	拡張期血圧	脈拍数	
house ID 対象者ID 時期	中央値 (四分位範囲)	中央値 (四分位範囲)	中央値 (四分位範囲)	中央値 (四分位範囲)
全house 全体対象者 介入前	28.6 (19.5, 40)	105(98.7, 111)	68.3 (64.7, 73.3)	73.7 (70, 77.3)
全house 全体対象者 介入中	31 (20, 80)	104(100, 109)	68.3 (65.4, 71.7)	74 (70.1, 78)
全house 全体対象者 介入後	20 (14.8, 29.5)	105(101.3, 112.3)	69 (66, 73.7)	73.2 (69.3, 76.7)

温熱改修実証実験

家・空き家 困っていませんか

空き家セミナー&個別相談会

11/23 11/28

MAIL:soudan@orca.jp

相談会チラシ